

第290回触媒化学研究センターコロキウム

共催 北海道大学グローバルCOEプログラム「触媒が先導する物質科学イノベーション」

粒子形成から見た触媒調製手法 ～選択析出法～

村松淳司教授（東北大学多元物質科学研究所）

2011年2月24日（木）16:00–17:00

創成科学研究棟4階セミナー室C

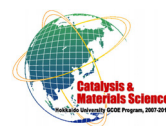
<http://www.cat.hokudai.ac.jp/access.html>



不均一触媒，特に担持金属触媒の調製法では，多く含浸法など溶液からの固相析出反応等の物理化学現象を伴う。析出時には核生成，粒子成長，粒子凝集，凝結などのプロセスを経るが，析出する粒子のサイズの制御には核生成と成長の分離，凝集・凝結の防止などの基本的手法が欠かせない。それら粒子形成プロセスから見た金属触媒調製法として選択析出法，液相還元選択析出法を紹介し，触媒調製法を念頭においた触媒設計を考えたい。

問合せ先： 触媒化学研究センター・福岡淳 (fukuoka@cat.hokudai.ac.jp・011-706-9140)

略歴： 村松淳司教授は，1959年愛知県豊川市生まれ。東京大学工学部合成化学科卒業。1988年同大学院博士課程修了(富永研)，工学博士。1988年東北大学選鉱製錬研究所・選鉱化学研究部門助手，1993年同素材工学研究所・液相制御研究部門講師，1995年同助教授，2001年同多元物質科学研究所・ハイブリッドナノ粒子研究部担当教授。ナノ粒子・微粒子に関する工業物理化学，レアメタル材料化学，有機-無機ハイブリッド材料工学などを研究。



290th Catalysis Research Center (CRC) Colloquium

Hokkaido University Global COE Program "Catalysis as the Basis for the Innovation in Materials Science"